日本の学童ほいく

新ロゴでリニューアル

みんなで読もう
目標
3万8000部

全国学童保育連絡協議会

普及拡大ニュース

2021年4月26日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

元気が出る
みんなの取り組みを
ご紹介

地域での普及拡大の取り組み

長野の取り組み

一歩一歩の普及拡大の取り組みを

２月末に安曇野市より長野県学童保育連絡協議会に学童保育指導員の勉強会の依頼がありました。その際に、『日本の学童ほいく』を紹介するとともにバックナンバーを見本誌として配布しました。

また、市内で12か所の学童保育を統括して運営している安曇野市社会福祉協議会の担当者を訪問し、「ほいく誌」の重要性を伝えたところ、興味を示してくださり、「10冊ならば購読できるかもしれない」とのこと。見積書を作成し、交渉中です。

滋賀の取り組み

ニュースを活用し、保護者に「ほいく誌」の購読を呼びかけています

県連協で発行している「しが学童保育ニュース」に、『日本の学童ほいく』４月号特集扉「ようこそ！出会い・広がれ・学童保育」を１面に載せ、新入所の保護者に購読を呼びかけています。

指導員の取り組みとしては、各所の研修会や、団体等での学習会テキストとして活用しています。さらに、2021年５月に予定している滋賀県学童保育連絡協議会総会や、滋賀県選出の国会議員との懇談では「ほいく誌」のチラシ、資料の配布などを予定しています。

奈良の取り組み

県連運営委員会の読みあわせで「ほいく誌」を紹介しています

毎月インターネット上で開催している「ほいく誌サロン」は、『日本の学童ほいく』を定期購読をされていない方の参加も可としています。年度の変わるこのタイミングで「ほいく誌」の年間購読をすすめています。また、奈良県連運営委員会の参加者もかわりますので、県連運営委員会での読みあわせを行い、「ほいく誌」の存在意義や購読をすすめる目的などを説明し、理解をいただいています。

日本の学童ほいく５月号

特集　いまあらためてたしかめる
学童保育の保護者会・父母会

「学童保育の保護者会・父母会ってなにするの？」多くの方が抱く疑問ではないでしょうか。コロナ禍のいま、よりよい学童保育をつくるために、私たちができることは……。いまあらためて、学童保育の「保護者会・父母会」について、その役割や、これまで大切にしてきたことをたしかめあいます。

日本の学童ほいく
新ロゴでリニューアル
みんなで読もう目標3万8000部
子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

全国学童保育連絡協議会
普及拡大ニュース
2021年4月26日

読者の声

北海道札幌市●保護者から

2021年1月号特別連載「子どもを深く理解するために」を読んで、我が子の子育てをふり返りました。子育ては日々想定外のことが起こります。昨日まで楽しそうに学校に行っていたと思えば、学童保育の指導員に聞いて初めて知る子どもの悩みがあったりします。（略）感情で怒ってしまったり、言葉かけに失敗して子どもが「もういい」なんて親に相談しなくなるときもあります。そういうときに何気なく開いて、相談とまではいかなくても専門家の考えや、いくつかの経験を知ることができるのが『日本の学童ほいく』です。

2021年1月号に掲載された茂木俊彦先生の記事のなかで“子どもの言葉や行動にていねいに目を向け、気持ちを理解したうえで働きかける”という言葉は、身にしみました。親だからといって子どもの行動を「こういう性格だから」とわかった気になったり、気持ちを聞かないで決めつけてしまっていることが多くありました。小学生になると子どもは親の知らない人間関係や生活の中で気持ちも考え方も変化し、成長しています。親の知らない部分がたくさんあるからこそ、ていねいに目を向けていくことの大切さを学びました。自分の子どもの行動や思いをていねいに見ていこうと思います。

和歌山県橋本市●指導員から

最初、職場で「モニターに申し込んだから」と言われた時は、何をするの？　どう書いたらいいのだろう？自らやりたいと言ったわけではなかったので正直重荷だなぁ、という思いでした。しかし、毎号読んで通信を送るうちに、新たな発見や自らの思いをふり返るきっかけになりました。そして、毎月1日に行われる会議のときに本を受け取るのが楽しみになっていました。届いていなくてすぐに読めなかったときは待ち遠しくなるほどでした。「読者のひろば」に掲載されたときのうれしさは忘れられません。

モニターという立場になったからか、読んでいて「大事だ」と思ったことや、その時々に学童保育で抱えている課題にリンクしていそうなことが載っていたときは、同僚に「こんなこと載っていた」と報告するようにしていました。読んで自分だけで終わらせるのではなく、職場で共有することで保育に少しでも活かせたらと思ったからです。皆に伝えたいと思うことで、今までと読み方が変わったように思います。（略）

私と「ほ゛い゛く゛誌」

全国連協役員リレー執筆・今月は兵庫県の平野良徳さん

私が『日本の学童ほいく』を手にしたのは長女が小学校入学した年、1984年4月でした。以来37年間、読みつづけてきています。でも熱心な「読み手」や「投稿者」であったとは言えません。阪神淡路大震災の際、たまたま「神戸市学童保育連絡会」の会長を担っていたということで「震災後の神戸の学童保育」について何度か記事を執筆し、全国の学童保育の仲間に支えていただいた「御縁」が読みつづける契機になっています（この間の話はあらためてどこかで）。

私が『日本の学童ほいく』で一番関心を持って読んでいるのは「どうして　どうして？」のコーナーです。子どもたちの率直な疑問に対してあの紙幅で「答える」ことのむずかしさを感じつつ、専門家の方々の協力を得てのコーナーです。NHKの長寿ラジオ番組「子ども科学電話相談」を長らく楽しみに聴いてきた経験からも、「どうして？」を発信している「子ども」に納得してもらえている「答え」ができているのかどうか？ がポイントと思っています。学童保育所では子どもたちと指導員の間で、家庭では子どもと保護者の間で、記事を前にしてやりとりをし、子どもの「疑問」に「応える」営みができればと思います。「大人たち」の「勉強のし甲斐」もあると感じています。

編集部でも、おそらく私と同じ「話題」がでていると思います。ゆくゆくはそこらを追いかける（回答する専門家のお話や疑問設定の苦労など）記事が読みたいな！　と思います。

編集・発行　全国学童保育連絡協議会　〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13　TEL●03-3813-0477　FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp　http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou